

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171400682		
法人名	医療法人社団 向仁会		
事業所名	グループホーム よろこびの家3階		
所在地	北海道函館市栄町16番地16号		
自己評価作成日	平成26年7月1日	評価結果市町村受理日	平成26年9月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0171400682-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成26年8月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは5ユニットと稀にみる大所帯です。職員の人数も多く、協力し合っています。また、当法人はグループホームが他に3ヶ所とクリニック、老人保健施設、包括支援センター、定期巡回型事業、サービス付き高齢者向け住宅があり、相互で情報交換や勉強会、研修等を実施し、全体で質を高め、向上できる体制にあります。グループホームでは独自の理念を掲げ、職員全員が理念に基づいた環境作り心掛けています。入居者様からは当然ですが、ご家族様からの要望なども、その都度意見や疑問を聞きながら、その内容の経過や段階を報告し、意向に沿った運営が出来るように常日頃から実施しております。近隣との繋がりにも重点を置き、町会主催の夏祭りや餅つき、町の清掃などのイベント活動に入居者様と共に職員も参加させて頂き、ご理解や馴染みの関係を作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)	
---------------------------------	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通い易い場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員が確認し合い、ユニット毎で掲示している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会行事にお誘いを受けており、職員と入居者様が参加をしている。回覧板も回って来ており、交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内クリーン作戦や花植えなど、町会行事には積極的に参加し、交流を深めて関係を築いている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、日ごろの入居者様の活動やグループホームでの取り組みを発表したり、ご家族様、町会の方々等にも参加して頂き、ご理解をいただける様、意見交換や質疑応答の場を設けている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議の開催時や、行事のご案内時等、実情や取り組みをお伝えしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が身体拘束廃止について理解するよう、身体拘束委員会で議決した「身体拘束を必要としない介護をしよう」をテーマに掲げ、入居者様の人権、尊厳を重視し、正しく不安のないケアが出来るよう取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員一人ひとりが虐待について意識を高め、注意し合える環境を作り努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	運営推進会議の議題にし、ご家族様との連携の中で学ぶ機会を設けた。現在必要とされている入居者様はいないが、必要時に備え体制を作っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様、ご家族様には事前にお知らせし、説明を行っており、理解・納得を得られている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や意見が合った場合には、スタッフ会議や管理者会議で話し合いを行う体制が出来ている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	シフト制のため職員全員が揃わない日でも、院内メールを活用し、チームワークを取っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	随時個人面談を行ったり、人事考課により都度、職員が働きやすい環境体制を整えていくよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの把握をしており、法人内外での、介護やケアに必要な勉強会を開催している。院内メールを活用し、全職員に対して勉強会、研修会の参加案内を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南北海道グループホーム連絡協議会に加盟しており、その中での勉強会や講演会等に参加し、他のグループホームと交流を深め、サービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ず管理者と入居窓口担当者がご本人様と面談を行っている。その際、ご本人様のご要望をお聞きし、安心していただけるよう会話をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者、入居窓口担当者は、ご家族様から困っていることや不安なこと、ご要望をお聞きし、今後の対応について話し合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様と話し合い、必要とされている支援について確認をし、ケアプランに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活において、出来ることは行って頂きながら、出来ないことは支援するという対応をさせて頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様からのご意見等は、必ず職員間で情報の共有をしている。ご家族様の希望や要望を取り入れ、共に入居者様を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族以外にも友人や知人が訪問されたり、馴染みのあるかかりつけ病院の受診を続けて頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に同じ家事支援のご協力を頂いたり、何かを一緒に行うことで入居者様同士の関係が築けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や施設移動された方に面会したり、継続的な関りを行っている。退居後も、関係を断ち切らない付き合いを心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は入居者様の日頃の生活の変化や、身体的状況の変化に注意を図っている。御本人様にも確認を取り、自立支援に基づき支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員間での情報を共有として、ご本人様、ご家族様との面談からフェイスシートを作成して、生活歴を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日必ず朝・夕の申し送り時に、入居者様一人ひとりについての経過や、現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンス会議、モニタリング、サービス担当者会議を行い、ご本人様、ご家族様、介護支援専門員、主治医、医療連携看護師等の意見や助言を考慮し、介護計画を立てている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画書に沿った介護記録のほか、生活における個々の記録を記入している。入居者様の介護記録を参考に、情報は職員間で共有し、より良い介護計画に繋がるよう活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の状況を把握し、必要に応じて外出、買い物、病院受診を始め、多くのニーズに対し、柔軟に対応し支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の町会行事には協力を頂いており、昔ながらの餅つき等の催し事に参加して頂き、暮らしを楽しめるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からのかかりつけ病院に、継続して受診できるよう対応している。状況に応じて病院に報告を行い、医師の指示を頂き対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回、医療連携看護師が訪問し、入居者様一人ひとりの健康管理を行っている。いつでも相談や報告が出来る様、24時間体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には管理者もご家族様と同行し、入院先の病院医師からお話を聞いている。入院中も情報交換のため、ご家族様と連絡を取り、早期退院に向けて医療連携看護師にも退院後のアドバイスを受けている。入院先病院でのカンファレンス会議にも参加を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後の対応や希望についてご家族様、主治医、看護師と担当者会議を開催し話し合い、主治医を中心とした医療・介護がチームとなり、連携を密にして安心して暮らせるよう支援を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルがあり、職員間での指導や勉強会を開催し、全ての職員が日勤帯、夜勤帯においてそれぞれの対応ができるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年必ず1年に2回、消防立会いのもと、災害時に全ての入居者様が避難できる方法を全職員が身に付け、入居者様も一緒に参加され避難訓練を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は入居者様一人ひとりに配慮し、入居者様も向上できる言葉かけを心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の表情や思いを察知し、会話の中で自己決定出来るような雰囲気作りを心掛け、職員のペースに巻き込むことがないよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は入居者様の気持ちを大切に考え、ペースに合わせて待つという事を大事にし、入居者様のご希望に添い、支援できる環境作り心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理髪は入居者様の希望を聞き対応している。入居者様の希望があれば季節に合った服の買い物、服装の声掛けやご本人様を選んだ服が着れるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	洋食、和食、お誕生会、クリスマス会、行事メニュー等を楽しんで頂いている。無理のないお手伝いを行って頂き自信に繋げ、生活に活気が出るよう支援している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	咀嚼や嚥下が上手に出来ない入居者様には、それぞれに応じ、お粥やキザミ食で提供を行っている。定期的に水分補給を行い、食事量や水分量を記録し、体調変化に注意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の義歯洗浄や歯磨きは声掛けを行い、個々の状態により見守りや介助を行っている。歯科受診の入居者様もあり、対応できている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄板や介護記録の活用で、職員の連携を図り、入居者様一人ひとりの排泄パターンを把握している。自立支援を基本に、見守りや付き添い、トイレ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い野菜類の食事提供、水分補給に配慮し、適度な運動を心がけている。また、医療連携看護師と連携し、下剤の調整で支援を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴が嫌いな方には、無理強いしないよう努めているが、希望やタイミングに合わせている。清潔を保つ為、清拭を含め入浴して頂けるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様個々の生活習慣が違うため、休息や就寝時間に決まりはなく、入居者様のペースで自由に過ごせる安心感を大切に考え支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	院内メールの活用や申し送り時、職員に確実に伝えている。服用時は手渡し、見守り、介助等で必ず確認を行い、体調の変化が見られた際には医療連携看護師、主治医に報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の暮らしの中で、入居者様との会話を大事にしている。その中から得た情報をもとに支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節行事ではお花見やドライブを行っている。天気の良い日には、入居者様の希望をお聞きし、近隣の散歩を行っている。ご家族様との外出の希望があれば、支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどは管理者が管理をしているが、お買い物の要望があれば、職員と一緒に買い物へ行き、購入のお手伝いをして支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話使用の希望があれば支援しているが、自室に電話機を設置している入居者様は自由に使用できている。手紙の返信も職員がお手伝いし、交流が続くよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や廊下には、四季や生活観が感じられる様な装飾を心がけ、不快な刺激になるようなことがないよう配慮している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂や廊下にソファを配置し、誰でも使用出来るようにして寛いで過ごして頂いている。窓際には季節や風景を楽しめる様に、外の景色を見れるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の配置は入居者様のADLに合わせている。入居の際、本人が使い慣れた家具を持参して頂くよう説明しており、自宅と同じ様にくつろげる空間作りに配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部全体がバリアフリーで、手すりの完備もされており、足元の安全確保がされている。歩行の困難な方、希望者の居室にはポータブルトイレを配置し、自立した生活の支援を行っている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171400682		
法人名	医療法人社団 向仁会		
事業所名	グループホームよろこびの家4階		
所在地	北海道函館市栄町16番16号		
自己評価作成日	平成26年7月1日	評価結果市町村受理日	平成26年9月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0171400682-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成26年8月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは5ユニットと稀にみる大所帯です。職員の人数も多く、協力し合っています。また、当法人はグループホームが他に3ヶ所とクリニック、老人保健施設、包括支援センター、定期巡回型事業、サービス付き高齢者向け住宅があり、相互で情報交換や勉強会、研修等を実施し、全体で質を高め、向上できる体制にあります。グループホームでは独自の理念を掲げ、職員全員が理念に基づいた環境作り心掛けています。入居者様からは当然ですが、ご家族様からの要望なども、その都度意見や疑問を聞きながら、その内容の経過や段階を報告し、意向に沿った運営が出来るように常日頃から実施しております。近隣との繋がりにも重点を置き、町会主催の夏祭りや餅つき、町の清掃などのイベント活動に入居者様と共に職員も参加させて頂き、ご理解や馴染みの関係を作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通い場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	よろこびの家の理念は「自由を守ります」「プライドを守ります」「ゆとりを持ちます」「思いを大切にします」「分かち合い共に生きます」の5つであり、職員同士が同じ理念を共有して実践に取り組んでいる。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣町会である旭町会・栄町会の地域活動には入居者様と一緒に参加している。また、あさひ小学校からは学芸会や運動会のお誘いがあり、入居者様と共に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣町会とは連絡を密にし、地域の役に立てよう地域活動には積極的に取り組んでいる。また、運営推進会議や町会主催の地域ケア会議に参加することもあり、認知症の理解や支援方法を深めて頂く努力をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1年に6回運営推進会議を実施しており、会議には町会・包括支援センター職員・入居者様・御家族様・民生委員・市町村担当者など外部の方にも参加して頂いており、意見をサービスの向上へ繋げている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは日頃より運営推進会議や日常業務を通じて情報交換や相談を行っており、実績や取り組みを伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内に身体拘束廃止委員会があり、職員全員で身体拘束について情報・意識の共有が行われている。玄関について、夜間は防犯の為に施錠しているが、日中は開放している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止委員会を定期的に開催して虐待防止に努めている。新規採用職員には、高齢者虐待感想文を書いて貰い、高齢者虐待防止への意識を高めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度や日常生活自立支援事業については、今後必要となる場合に備えて新人スタッフも含め勉強会を積極的に行っていかなければならない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約に関して、担当管理者が説明をして理解、納得を得ている。不安や疑問点についても随時対応して理解、納得を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱や苦情相談窓口を設置しており、意見や要望があった場合は管理者を含めたスタッフ会議等で原因を考えて改善策を話し合っている。また、話し合いの内容については御家族様に開示している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットごとにスタッフ会議を開いており、月に1回代表者や全事業所管理者が集まり、会議を開いている。その他、専用インターネットシステムを利用して、意見や提案をいつでも閲覧出来るようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者が、職員一人ひとりの能力・実績・勤務態度等の評価を代表者に報告して給与に反映させている。給与水準の向上などにより、向上心を持って働ける職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会や研修会の参加を院内メールにて全職員に促しています。ユニット毎でも勉強会を開催しており勤務時間内に全職員が誰でも参加できる体制を整えています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	当グループホームは南北海道連絡協議会へ属しており、研修への参加、同業者との交流の機会を設け、情報交換を行う事によりサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始前には御自宅や入所施設等へ伺い、御本人様の意見や不安に耳を傾け、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用開始前には御自宅や当施設等で御家族様が困っている事、不安な事は事前にお話しを聞いて関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用開始前に該当階管理者、入居担当者及び計画作成担当者と御家族様、御本人様で話し合える場を設けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	御本人様それぞれの既往歴などを元に、コミュニケーションを図っており、家事や遊び等を一緒に行う事で共同生活の場で同じ時間を過ごさせて頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の日常生活の状況について、その都度、御家族様へ報告を行っている。御家族様の希望、要望は可能な限り取り入れ、御家族様と職員が共に入居者様を支える関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	過去からの馴染みの関係がいつまでも途切れない様に、面会時間の制限は設けていない。御友人の訪問だけでなく、電話や手紙などもお手伝いしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が一緒に行える家事作業(食器拭き、洗濯たみ)等の場面を職員が配慮している。食事の時間やお茶の時間は、入居者様同士が交流を深められる様な環境づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も関係を断ち切らない付き合いが出来るように心がけている。現時点でサービス利用終了後も継続的な関わりを必要とする入居様はいない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様の希望・要望を伺い、御本人様本意の生活を送って頂ける様に日頃の会話や生活から意志や思いを取り入れて、定期的なカンファレンス会議やスタッフ会議を行っている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際には御本人様・御家族様と面談を行い、計画作成担当者がフェイスシートを作成し、職員間で情報を共有して馴染みの生活が出来るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の暮らしの状況を介護記録に記入し、入居者様一人ひとりの状態の把握に努めている。変化があった時は、申し送りや専用インターネットシステムを活用しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御家族様、御本人様、介護支援専門員、主治医、医療連携看護師、職員と定期的に話し合いや会議を開催し、そこでの情報を基に計画作成担当者が介護計画を立てている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中・夜間帯の入居者様の状態・様子を個別に記録している。専用インターネットシステムも利用しながら、職員間の情報共有に努めており、より良い介護支援計画に繋がるよう活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様・御家族様の状態、状況に応じ、その時々生まれるニーズ(外出・外泊・買物・受診)に柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会主催の花植え、夏祭り、餅つき等の参加や地域の学校、ボランティア協力の下、御本人様の意向や必要に応じて安心安全な生活が出来る様に支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者様が昔から掛かっているかかりつけの医療機関を利用して頂いている。週に1回、医療連携看護師による健康管理を行っており、随時相談や助言を受ける事ができる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制は24時間確保されており、週に一度、看護師による、訪問・相談を行なっている。看護師からは医療面での適切な相談・助言を頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には担当医、担当看護師と情報交換を行い、入院中も安心して過ごして頂ける様に努めている。また、早期退院が出来るよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に向けた対応や希望については、御本人様御家族様、主治医、医療連携看護師と担当者会議を開き、入居者様が最後まで安心して生活して頂ける様に取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時のマニュアルを完備しており、勉強会、研修会を開催して各ユニットで話し合って適切な判断・対応が出来る様に努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署員の立会いのもと、年に2回避難訓練を実施しており、災害の際には迅速に避難できる体制を整えている。今後も近隣住民の協力が得られるように連携を計り、協力体制を築いていきたい。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に対しての言葉遣いや声掛けには十分に気を配る様、管理者を中心に指導を行っており、御本人様の意志を尊重させたケアを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人様の希望を尊重し、自己決定出来る様に努めている。日常生活の中で入居者の活躍の場を探し、増やしていく事で認知症の進行予防に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の自己都合で行動せず、入居者様一人ひとりのペースを大切にし、希望や意向に沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出張理美容や馴染みの美容室を希望に応じて利用出来る様に支援している。季節にあった服装の声掛けや御本人が選んだ洋服が着れる様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と一緒に準備や片付けを行い、共に同じ物を食べている。食事が楽しい時間になるように、入居者様の食べたい物を伺ったり、旬の食材を活用している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録を活用し、食事量・水分量等を全職員が把握しており、栄養のバランスが偏らないようにメニューを考えて支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	御自分でケアが出来る方へは声掛け・確認し、御自分で出来ない方には介助を行って、清潔保持に努めている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録を活用してそれぞれの排泄パターンを把握し、定期的にトイレに誘導している。失敗を減らして、更に御家族様へのコスト削減に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	介護記録や排便確認表を活用し、全職員が入居者様の排便状況を把握しており便秘予防として食物繊維の多い食材を取り入れる様に心がけている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間帯は特に制限はなく、御本人様の好きな時間に入浴して頂ける様に配慮しており、御本人様の希望を聞かせて頂いてから入浴の準備を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様は好きな場所で休息をとられており、ゆっくりと寛げる環境作りをしている。また、介護記録を活用して睡眠状況を把握する事で、安心した睡眠がとれる配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認表や個人ファイルを活用する事により、入居者様の服薬状況を全職員が把握し、その方に合った、用法・用量を守る様に見守り・介助を行なっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の残存能力を活かせる様に、一人ひとりにあった家事支援・レクリエーション等を提供して、様々な場面で喜びのある生活が送れる様に支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者様から希望があった場合には、職員間で話し合い、近隣への買物やドライブなどのお手伝いを行なっている。また、御家族様や地域の方々と協力しながら、ホーム外へも出られる様に支援をしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御本人様で管理出切る方は管理して頂き、困難な場合は管理者で管理させて頂いている。金銭の使用用途は毎月御家族様へ帳簿・領収書で報告させて頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様や御本人様の希望により、居室内に電話を設置している。自由に電話のやり取りができるようになっている。手紙のやり取りも希望に沿ってお手伝いしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに模様替えを行なっている。物の配置や照明には気を配り、落ち着いて生活して頂ける様にしている。また、当ホームは海側に面しており、波の音や鳥の鳴き声が聞こえる落ち着いた環境であり、日当たりも良好である。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	他の入居者様とも楽しく交流して頂く空間として、ホールや廊下に数々の椅子を設置し、好きな場所で自由に過ごす事が出来る様にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には御本人様の馴染みの品物を使って頂ける様、御家族様に促しており、御本人様が居心地よく過ごして頂ける様に努めている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	当施設ではバリアフリー・手すりが完備されており、自立した生活が送れる様に整備している。また、歩行困難な方には居室内でポータブルトイレを設置し、安心安全な生活を送って頂ける様に努めている。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0171400682		
法人名	医療法人社団 向仁会		
事業所名	グループホーム よろこびの家 5階		
所在地	北海道函館市栄町16-16		
自己評価作成日	平成26年7月1日	評価結果市町村受理日	平成26年9月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=0171400682-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	タンジエント株式会社
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内
訪問調査日	平成26年8月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは5ユニットと稀にみる大所帯です。職員の人数も多く、協力し合っています。また、当法人はグループホームが他に3ヶ所とクリニック、老人保健施設、包括支援センター、定期巡回型事業、サービス付き高齢者向け住宅があり、相互で情報交換や勉強会、研修等を実施し、全体で質を高め、向上できる体制にあります。グループホームでは独自の理念を掲げ、職員全員が理念に基づいた環境作り心掛けています。入居者様からは当然ですが、ご家族様からの要望なども、その都度意見や疑問を聞きながら、その内容の経過や段階を報告し、意向に沿った運営が出来るように常日頃から実施しております。近隣との繋がりにも重点を置き、町会主催の夏祭りや餅つき、町の清掃などのイベント活動に入居者様と共に職員も参加させて頂き、ご理解や馴染みの関係を作っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)	
---------------------------------	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64 通い場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	よろこびの家独自の理念があり、朝礼時に述べ職員同士で理念の意味を確認し合い、理念に沿った介護を実践できるよう心掛けている。理念は誰でも見れるように掲示板に掲示している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	当ホーム近隣の町会に所属しており町内会の清掃活動や花植えに入居者様と共に参加しています。近隣の小学校からは運動会や学芸会のお誘いがあり入居者様と共に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に密着できるように日頃から町会長さんと何か参加できることはないか話をしている。町会主催の行事へのお誘いがあった時は参加できる体制をとっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、活動や生活状況を説明している。ご家族様にも参加を促し、意見交換を行いサービスの向上に繋げている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは日頃より情報交換を行っている。運営推進会議にも参加して頂いており、当ホームの実情やケアサービスの取り組みを伝えている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内に身体拘束廃止委員会を設けており、職員全員で身体拘束について話し合っている。玄関の鍵は夜間は防犯のため鍵を掛けているが、日中は鍵を掛けていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新職員には高齢者虐待についての感想文を書いてもらい、高齢者虐待防止への意識を高めている。管理者が中心となり虐待が起きていないか話し合い、検討し虐待防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度等の研修会に参加している。今後は更に全職員が理解できるように勉強会等に参加し、知識を養う必要がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居者様やご家族様には十分な説明を行い、納得した上で契約、解約を行っている。説明時には、その都度疑問点がないか確認しながら対応し、理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱や苦情相談窓口担当者を設置している。意見や要望があった時は職員全員で原因を考え改善策を話し合っている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や業務内で随時、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。又、その意見や提案を運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は年に一度職員と人事考課、面談を行い、努力や能力を評価し尊重し合える環境作りを行っており、各自が向上心を持って働けるように取り組んでいる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会や外部での研修があった時には、声掛け参加を行っている。参加希望の職員には勤務調整を行っている。参加後は報告書を作成し、職員全員が共有できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	代表者や管理者は勉強会や会議等で他業者と交流する機会がある。法人内ではパソコンメールで情報交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者、入居窓口担当者がご本人、ご家族様と面談し、困っていること、不安なこと、要望を聞く機会を作っている。早急に話し合い、関わっていく職員全員が共有し、解決できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期の段階からご家族様が困っていることや不安に思っている事、要望は必ず伺い、職員間で把握し、安心して利用できるように配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様やご家族が必要としている支援を第一のサービスにするようにケアプランを作成している。場合によっては、近隣の施設と連携をとり対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の生活暦を踏まえコミュニケーションを図っている。食事の作り方を教わり、知識や知恵を学ぶことを忘れずに、一緒に過ごす事で楽しく安心して生活できるように心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の希望、要望は可能な限り取り入れ対応している。入居者様の生活や健康状態は面会時や電話で報告しており、職員とご家族様が共に入居者様を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達や知人との関係が今後も続くように面会の機会を設けたり、時には手紙や電話などをお手伝いさせて頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格、生活暦を把握し一人一人に合わせたケアを行っている。お茶や食事の際の座席にも配慮し職員が間に入り他入居者様とコミュニケーションを図れるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了しても、入居者様やご家族様には必要に応じて相談等に対応する事は伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らし方の希望や意見等を入居者様やご家族様からお聞きし、生活が満足できるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際には担当者がフェイスシートを作成し、これまでの生活歴を把握、職員間で共有できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の暮らしの状況を介護記録に記入し、全職員が把握に努めており、特変があった時は申し送りやインターネットを活用している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護支援専門員はサービス担当者会議で入居者様、ご家族様、必要関係者から意見を聞き、すべてを配慮した上で介護計画を立案している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各入居者様の食事量、水分量、排泄状況、行動等を介護記録に記載し、全職員で共有しながら、次回のケアプランに活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様、ご家族様の状態、状況に応じ外出、買い物、受診等の多くのニーズに対応するように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の行事への参加や地域の学校、ボランティア協力の下、ご本人の意向や必要性に応じて安心して安全な生活が送れるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、入居者様及びご家族様の希望を大切に、かかりつけ医がいる入居者様は自由に受診、相談が行える様、配慮している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者様の状態に変化があった時は医療連携看護師に連絡している。週に1度看護師が訪問し入居者様全員が健康管理を受けられており、情報交換もその都度行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者が中心となり、入院先には入居者様の生活情報を提供し、入院中も安心して過ごしていただけるよう努めており、随時、医療機関と情報交換し、早期に退院できるよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りを希望される場合には、担当者会議を開き、終末に向けて方向性を担当医師、看護師、ご家族様、職員で話し合い、入居者様が生涯、安心して暮らして頂けるように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	初期対応や応急手当マニュアルがあり、勉強会や研修会を開催し、職員全員が対応出来る様に努めている。又、個々の入居者様に合った急変時の対応についても主治医と情報交換し指示を頂いている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防協力の下、避難訓練を実施しており、災害の際には迅速に避難できるよう体制を整えている。又、近隣やご家族様の参加も募っており、協力が得られる体制をとっている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや言葉掛けには十分気を配る様、管理者を中心に指導を行っている。信頼関係が深まるにつれ、言葉遣いが軽くならない様に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の希望や思いに配慮し活躍の場を増やすことで認知症の進行防止に努め、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の自己都合で行動せず、入居者様のペースを大切にし、希望や意向に沿った支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装の声掛けや、ご本人に選んでいただくようにしている。理容や化粧等ご本人の希望に沿って支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の嗜好を汲み取り毎日の食事を楽しんで頂ける様に取り組んでいる。食事の準備や片付けを出来るだけ一緒に行い、共に食事をしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養のバランスが偏らないように、メニューを考え、好き嫌いがある方にも、声掛けを少しでも召し上がって頂ける様にしている。定期的に水分補給を行い、摂取量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で行える方は声掛け、見守りを行い、出来ない方には介助で口腔ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握する為に介護記録を活用し、職員連携を図りトイレ誘導を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や日中体を動かすよう、全員で行うラジオ体操など適度な運動を心掛け支援しています。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴をして頂けるように努めている。入浴が嫌いな入居者様には、無理強いしないよう努め、清潔を保つ為、入浴して頂ける様にしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様はそれぞれ好きな場所で休息をとられており、その時の気分を尊重している。就寝時間は特に決めておらず個々の習慣を大切に個別に対応出来る様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で常に情報を共有し、服薬状況を把握している。服薬時も手渡し、見守り、介助をし確実に服薬出来る様に支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の残存機能を活かせるように、それぞれに合った、家事作業、レクリエーション等様々な場面で活躍できる支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩、買い物希望される入居者様とは一緒に買い物に出掛ける等、出来るだけご本人希望に沿って出掛けるよう支援を行っている。希望されない方には定期的に外出を促し、ホームにこもらないよう支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理のできる方は自分で管理している。できない方は管理者が管理を行っており、金銭の出入りは金銭管理台帳に記載し、随時ご家族様に確認して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様やご本人様の希望によっては居室内に電話を設置し自由に使用できるように支援している。手紙の作成をお手伝いし手紙のやり取りができるように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	当ホームは海沿いに面しており、さざなみが聞こえ、日当たりも良い。明るさはカーテンや電気によって常に過ごしやすく調節している。季節に合った花や、飾りつけで季節感をとりいれている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	楽しく過ごせる空間としてホールや廊下に数々の椅子があり、気の合う入居者様同士で会話されたり、一人でくつろぐ等、自由に過ごせることができるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、使い慣れた家具や趣味の物を置いて、居心地よく過ごして頂ける居室作りを心掛けている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	居室、トイレ、ホール等バリアフリーになっており、廊下、トイレ、ホール、浴槽にも手摺が設置されている。歩行が困難な方に対しても居室内にポータブルトイレを設置し自立した生活を支援している。		